

教科における探究的な学びのあり方

～教科学習における「問いをもつ」とは～

実践内容

本校としての探究の目指す方向がみえてきた

探究といえば総合的な学習の時間

0ベースからの
スタート地域に出なけ
ればダメ?日々の業務に追
われる先生方

問いをもつ



教科学習

探究の
可能性?

『教科学習』を探究化できないか!?

【なぜ教科で探究なのか?】

今年度は「探究元年」として、二中での探究の第一歩を踏み出しました。合言葉は「問いをもつ」です。私たち中学校の教員の強みはなんといっても「教科学習」です。まずは子どもたちや我々職員が心を動かし、わくわくするような教科学習を目指しました。

【探究先進校も教科を大事にしている!】

学びのあと押し事業に参加させていただいたおかげで、今年度は茨城県の勝田中等教育学校と鳥取県の青翔開智中学校・高等学校に県外視察に行かせていただきました。どちらの学校も探究を軸にしていますが、わくわくするような教科学習を行ったり、教科学習の中で探究スキルを磨こうとしたりしているところが共通していました。



【伴走支援による研修の充実】

信州大学荒井英治郎先生や本校の学びのあと押し事業：伴走支援者の竹内克紘先生に関わっていただきました。対話的なワークショップを始め、教科を探究化するためのお悩み相談会など、職員の困り感に対して同じ目線で伴走していただき、来年度への見通しがもてるようになってきました。

成果と課題

「教科の探究化」を意識し、子どもたちがわくわくするような場面設定の工夫をしたり、個別に学習課題を立てて追究を行うようにしたりすることで、休み時間になっても追究が止まらないような子どもたちの姿に出会えたことが今年度の成果です。

職員間の意識の統一と探究を行うことで子どもたちにどんな力を身につけるのかを明確にすることが課題です。若い先生方、中堅の先生方、ベテランの先生方によって、授業観や子ども観は様々です。また公立の中学校は1年単位で職員組織も入れ替わります。そのような不安定な中でいかに「探究」という学校としての柱を通していか、考えていきたいと思います。また「活動あって学びなし」ではなく、教科の探究単元を実施することで子どもたちにどのような力を身につけたいのか、また子どもたちにどんな姿になってほしいのかを明確にしていくことが大切であると考えています。